

(様式第4号)

上田中央地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	平成28年11月24日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	中央公民館 2階 第1会議室
4 出席者	伊藤委員、岩野委員、金井委員、小山委員、谷藤委員、中澤委員、成澤委員、藤木委員、古川委員、増田委員、丸山幸雄委員、丸山理英子委員、宮下委員、山浦委員、吉田委員
5 市側出席者	竜野地域振興政策幹、武捨市民参加・協働推進課長補佐、北沢市民参加・協働推進課長補佐、小林市民参加・協働推進担当係長、樋口市民参加・協働推進担当主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成28年12月6日

協 議 事 項 等

会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議

(1) 地域内分権の推進について

ア 工程(案)

- ・事務局から地域経営会議設立に向けての工程(案)について説明
- ・以下、質疑応答

(委員) 今までは、地区連が納得しないという前提で意見を述べてきた。しかし、詳細な資料や工程表が示されたことで、市の姿勢が十分伝わる。自治会長の負担の1つとして、役員を選出が挙げられる。現在多くある役員の数等を見直す場として住民自治組織を位置付ければ、自治会長も検討する余地があるのではないか。

(委員) 住民自治組織設立に向けて協議していることは、広く住民に知られていることなのか。

(事務局) 市が地域内分権を推進していることは、合併以来、広報等を通じて周知してきている。

(委員) 自治会内で役員の成り手がいないことが課題であるが、それに加え住民自治組織の役員選出が増えるのは負担になる。

(事務局) まずは、住民自治組織設立の準備会を立ち上げることになるので、そのように役員の成り手がいない自治会をどうするか等も含めて、話し合っていてほしいと考えている。

(委員) 中央地域は市内の他地域と比べて、なぜこんなに遅れているのか。

(事務局) 中央地域は地域協議会の協議のみで、地区連や自治会で協議するのは時期尚早ではないかとなっていた。しかし、前回会議の中で、とにかく進んでみるために自治会へ話を持ちかけたかどうかという意見が出たため、本日案をお示しした。また、遅れについては中央地域の特性を考えると、やむを得ないと思う。

(委員) いきなり住民自治組織についての説明を各地区連にしても、何のことかわからないのではないかと。また、毎年多くの自治会長が入れ替わる中で、自分達が決めることなのかという疑問もある。

(副会長) 毎年多くの自治会長が変わるが、総会等で地域内分権について説明会を開いている。最初はよくわからないというのが正直なところだが、会議を重ねるうちに理解していかなければならないと意識も変わってくる。しかし、中央地域は5つの地区連があり、それぞれの地域の特性もある。それらをまとめるのは難しい。

(委員) まずは組織を設立し、地域の実情に合わせて変化させていくということが良いのではないかと。

イ 地区自治連への説明(案)

- ・事務局から地区連への説明資料(案)について説明
- ・以下、質疑応答

(委員) 自治連があるのに、なぜ新たな組織である住民自治組織を設立するのかということに対して理解が深まっていないことが問題。資料には良さそうなことが書かれており、確かに防災を例にとると、防災拠点を自治会ごとに設置することは難しいが、中央地域の範囲で設置すれば効率的であるという理屈は分かる。しかし、すぐに行動しようという気持ちが出てこない。また、高齢者サロンについては、設置する範囲をどうするかという課題が残る。そのような課題について住民自治組織で話し合っ、その方向に進んでいければ、それはそれで良いことだと思ふ。

(委員) 今はまだ自治会へ説明する状況ではないように思える。

(副会長) 各地区連の会長が話をし、各自治会長がどのようにお考えになるかによる。

(委員) 工程表により全体像がはっきりした。説明する対象が自治会限定となっているが、自治会に限定する必要はないと思う。説明会には自治会長だけを集めるのではなく、各市民活動団体も呼んだ方が良いのでは。神川地区のソフトボールチームは、地域のためにも活動している。もう少し広い範囲で話をしていかなければならないと思う。

(事務局) 皆様から、具体的にこの団体に声をかけた方が良い等教えていただきたい。あくまで地区連は1つの単位として考えている。

(会長) 各地区連の中で、こういう団体も一緒に活動していただきたいという文言や説明も付け加えてほしい。

(委員) 自治会長達も1回の説明だけでは理解が深まらないと思うが、どのように話をしていくのか。また、交付金の活用事業例があるが、高齢者サロンについては、自治会で設営しているところもある。また、育成活動についても現在のシステムがしっかりあるので、これ以上のものは必要ないかと思う。このような活用事業例は新鮮味に欠けるので、例えば連日報道されている高齢者の自動車事故問題から、運転免許証返納後の交通手段等を盛り込んでいただければ新鮮なのではないか。交付金の活用事業例をより精査して説明してほしい。

(事務局) 資料では説明1回としているが、必要に応じて何回でも説明し、場合によっては各自治会にお伺いして説明することも可能。交付金の活用事業例については、一部をお示ししているため、ご指摘どおりの部分もある。また、現在自治会範囲で上手くいっている活動については、無理して住民自治組織へ引き継ぐ必要がなく、そのまま活動していただき、そのような仕組みがなく必要である地域について、交付金を活用して事業を行っていただければと思う。

(会長) 今、お話があったことは文言として明確に示してほしい。また、高齢者サロンについては本来コーディネーターが必要であり、不在となるとお茶会となり、誰でも入ることができない状態になってしまう。そのようなポイントをしっかりと押さえていかなければならない。また、このような事業を進めていく時に、今までこういう弊害があったが、住民自治組織があるおかげでここまで出来るということまで説明した方がよい。さらに、これまで単独で活動していたNPO法人等が、住民自治組織に入ることによって、活動に制限がかかるのではないかという不安もあるので、工夫をして説明していただきたい。

(委員) 地区連または自治会に話を持っていく時に、これをしなくて良くなるので負担がなくなるといったようなセールスポイントはあるのか。

(事務局) 自治会の負担というのは、自治会長の負担となる部分が多い。その中でも役員を選出は精神的にも大変である。それについて役の数を減らす等で自治会の負担軽減を目指していきたい。

(事務局) 説明の場を想定したご意見をいただきありがとうございます。高齢者サロンのように自治会単位でやったほうが良いという活動や交付金の活用例についてご意見があれば教えていただきたい。

(委員) 自治会加入率の低下や人間関係の希薄化という課題に対して、広域で取組むメリットをもう少し具体的に示してほしい。

(会長) 時間軸で説明したほうが良いと思う。何年間は大変だが、そこから先は軽減されていくというような説明が必要。また、各自治会でこんな課題等があるという意見をまとめていただき、事務局へ連絡してもらいたい。

(事務局) 次回の地域協議会までをお願いしたい。

4 その他

(1) 当面の日程

- ア 12月15日(木) 13:30(会場:中央公民館 2階 第1会議室)
- イ 1月26日(木) 13:30(会場:中央公民館 2階 第1会議室)
- ウ 2月16日(木) 13:30(未定)

(2) 公民館からお知らせ

- ・11月19、20日に開催された「まちづくり」についての御礼

(3) その他

- ・特になし

5 閉会